

等から起る不正を徹底的に洗うつもりだ。といつても、県の検査にも自から限界があるので、そういう面は、系統機関として、中央会において県の指示した事後指導をお願いしたい。

◎ 監査は少くとも年一回は

古沢 それは当然私の方でやらねばならぬが、監査士が四名で少ないので、年に三〇乃至四〇組合しかやれぬ。その間隙を埋めるため、経営診断的なものをやってみて、一日か二日でカンドコロを掴み、組合運営の方向づけをやつて行きたい。これは中央会だけでなく、販購連、信連の出先機関と一緒にやるわけだが、このようにして、年一回ほどの組合でもみなやつて行きたいと思う。

高野 今の場合、本当に組合員の側に立つて、農民の利益を擁護してゆくのは、検査以外にない、何も組合のアラ探しというのではなくて、組合員の汗の蓄積をフイにしない為に、検査によつて経営を健全化するつもりだ。

古沢 もともと年に二回、組合の監事は監査しなければならぬことになつているので、監事講習会によつて監査能力を賦与し、自主的な、しかも立派な監事による監査ができるようにして行くことが実は私の方でも本旨とするところだ。

高野 早く常例検査なんかしなくともよいようにしたいものです。

汐持 今までのような施策がとられてきたが、まだ県段階、町村段階で空回りしている点がある。今度の刷新拡充三カ年拡充計画にしても、これが成功するか否かはこの計画がやはり末端農家までつながるかどうかだ。何と言つても、農家の理解と協力がなければ、農家の自覚に立つた三カ年計画でなければならぬ。

古沢 そこが問題だと思ふ。熊本県の場合、連合会と単協とはよく繋がつていて、肝やかなめの農協と組合員との間がうまく密着してない。

高野 従来、経営不振の原因、つまり乱立による数の多いこと、従つて経営規模が小さいこと、それで資金が少いというような分り切つた問題が、常に口にされながら、一向に解決して前進しない。ここらあたりに、本県農協の根本的問題がありはしないかと思ふ。今度の刷新拡充計画で、従来のちぢこまつた農協の殻を打破つて戴きたい。そこに一つの転換の型が生れてくるのではないかと期待している。

若宮 要するに、農家の営農乃至生活設計に立脚して、農協の経営が行われ、それがさらに連合会の運営につながつて行く、つまり農民と直結した系統一体化の組合活動が、この三カ年計画の根本的な狙いで、しかもこのためには、まづ第一に資金の増強というわけですね。一つ皆さん農民のための農協を目指して今後一段と頑張つて戴きたいと思ひます。

酪農振興の基点

〈その1〉

阿蘇町に「牛乳処理場」新設

阿蘇総合開発の主要な一環として、県が力こぶを入れている集約酪農は、政府の指定地域となつてからいよく拍車を加えられた形で、県と地元との緊密な協力の下に、益々その成果を増大しつつある。

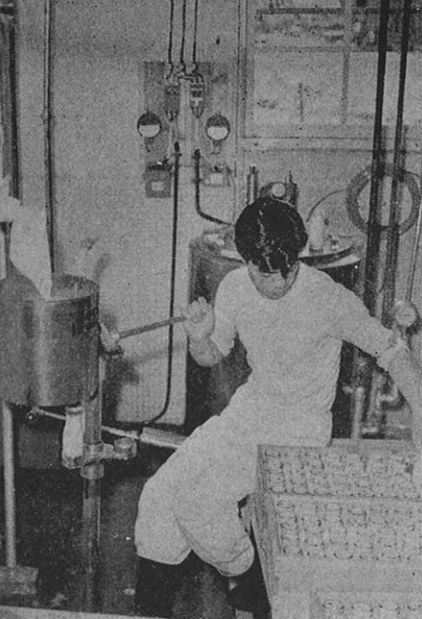
その一つは小国郷へのチャージ乳牛導入であり、いま一つは、こゝに述べようとする阿蘇町の牛乳処理場新設である。

所で、白壁の洋風建築、工費四〇〇万円というスマートな平屋建で、小規模ながら設備は一応完備している。もともとこの地区では、阿蘇酪農農業協同組合が県立阿蘇農高の施設を借りて牛乳の処理に當つていたが、その後部の酪農協同組合がつくられるに及び各単協の出資によつて今回の処理場新設を見たもの。

小国郷とちがつてこの阿蘇谷は、ホルスタインが導入されており、阿蘇町西町をモデル地区として集中的な総合指導が行われてきた。

チャージ種は乳の脂肪が五、五〇程度であるに比してホルスタインは三、五〇と約二〇少ないが、乳量は前者の平均七八升止りに対して、一斗二三升止りと大中に多いのが特徴、一長一短というところである。

現在のこの処理場では、谷内だけの需給で一日約一石を生



★ 牛乳処理場の内部

豊富な各種資源を有しながら、災害常襲地帯としての制約や、離島の立地条件のため経済的な後進性から脱却し得ず、立おくれの状態にある九州山口地方を、関係八県が力を併せて三カ年計画のもとに開発しようとする『九州地方開発推進協議会』が六月二日発足した。

協議会のネライ

そのねらいとするところは、経済発展と生活水準の向上である。このため、地方公共団体の財源を計画的に投入すると共に、民間資本を積極的に導入し、各県が緊密な連繫を保ちながら国の重要施策としてその実現を図ろうとするものである。根幹事業の基準としては、「二県以上上にまたがる事業」、「効果が二県以上にまたがる事業」および「国家的重要性のため各県の協力を必要とする事業」であることを条件としている。

経済の発展と生活水準の向上をめざし九州地方開発推進協議会が発足

協議会は各県知事、県議会議長、市長、市議會議長、町長、町議會議長、小国と南郷に増設される計画があつて全部の酪農振興に大きく働きかけるわけだ。すでに操業を始めているこの処理場一日のプログラムは、先ず早朝五時頃から三輪車で前日処理した牛乳の配達にまわり同時に各村から牛乳を集めてくる。処理場ではアルコールテストによつて乳の新鮮度をしらべ、次いで、温度、比重、酸度、重量などを検査する。次に受乳タンクに入れ、濾過してミルクポンプに送り、蒸気殺菌の後、均質処理をして冷却する。

そこでいよいよ瓶につめ、冷蔵庫に入れて一夜をすごさせ、翌朝配達という順序である。

すべての処理がほとんど機械力で、人手は三、四人に過ぎず、万事もかろく清潔な処理は、見るからに衛生的で気持ちよい。

牛乳が栄養食糧として、最も高率な効果をもちことは周知のとおりであり、今後阿蘇酪農の振興は、農家経営の潤滑油になるとともに、一般住民の栄養増進にも、大きくモノをいうことになるであろう。

この「広報くまもと」は、県民の皆さんに、県の仕事の内容や、知つていただきたい事をお知らせするためのものです。御意見や御希望を広報課へお寄せ下さい。転載自由です。

務局内におき、更に中央との連絡を密にするため、東京に推進連絡協議会をおくるとともに、経済企画庁内に『九州地方開発室』の設置を求め、分担金七百万円、寄附金三百万円、計一千万円の予算で発足することになった。

自民 両党にも特別委

又一方、去る五月中旬には自民党内に『九州開発特別委員会』が結成され委員長に小沢佐重喜、副委員長に要知一郎、小坂善太郎、松野頼三の三氏を決定したが、更に社会党内にも水谷長三郎氏を委員長、内村清次氏を副委員長とする特別委員会の発足を決めており、今後は協議会と両特別委員会との協力により、越境派派的な開発の推進をはかることになつていく。

積極的な実動へ

なご協議会ではその発足に当り①災害対策の樹立②交通運輸観光施設の整備③資源の開発とその高度利用の三大目標を確立し更に、④九州地方開発促進法の制定⑤九州地方開発金融公庫の設置⑥台風常襲地帯における災害対策の確立⑦九州地方開発に関する中央行政機構の整備⑧九州開発に必要な予算の特別措置の五項目を政府に要請することを議決したが、六月中に協議会で具体的な計画を策定し、七月早々特別委員会に提出することになった。

公明選挙運動が始まられてから、すでに五年になろうとしています。選挙が行われる直前に、いわば泥縄式に行つていたので、その効果も少いといふわけで、県では常時的な「話し合い運動」を展開することになりました。

公明選挙を実現するためには、結局人々の政治的教養を向上させることが基本であり、このためには「話し合い」が最も効果的なものであるとして、この運動はすでに一昨年から全国各地で実行され、相当の効果を挙げています。

「話し合い」というのは、選挙や政治の問題に限らず、我々の日常生活での身近な問題について互いに意見の交換をすることですが、それによつて我々の生活と政治とのつながりも認識されるわけですね。

本県でも「話し合い」運動を強力に推進するために、次の事業を実施することになりました。

各地で「話しあい運動」を

- 一、「話し合い」の助言者を養成し、又研修を行い、資料を作成する。
 - 二、「話し合い」のモデル地区を増設する。
 - 三、講演会、座談会、弁論大会をひんばんに開催する。
- この具体的な事項については近くお知らせします。県民の皆さんの御協力をお願いします。

常時化する公明選挙運動